

10月のニュージーランド視察研修を終えた
佐藤先生、小西代表にお話をお聞きました。

淑徳大学短期大学部こども学科教授

プリメックスキッズ株式会社 代表取締役

佐藤 純子 × 小西 由美枝

ニュージーランド 幼児教育視察研修



10月に6日間の日程で、ニュージーランド幼児教育視察研修が行われました。研修では、保育園、幼稚園、テ・コハンガレオ、プレイセンター、小学校、中学校、大学（養成校）などを視察。「テ・ファリキ」のレクチャーをはじめ、現地の幼児教育を、カンタベリー大学の講師から直接学ぶ貴重な機会となりました。

研修実施日：
2019年10月21日（月）～
10月26日（土）
参加人数：14人

ニュージーランドは火山や氷河を有する2つの主な島からなり、南西太平洋に位置します。人口密度が低く、面積は約270,534km²（日本の約70%）に対し、人口は約495万人です。平均出生率は1.8人。子どもを育てる環境はどのようなもので、日本と何が違っていたのでしょうか？研修を終えた、佐藤先生、小西代表にお話をお聞きました。

子育てしている女性が働きやすい

小西 ニュージーランドはジャシンダ・アーダーンという女性の首相が務めています。出産後、わずか6週間で職場復帰しているパワフルな女性です。彼女は自分の3ヶ月になる子どもを連れて国連総会に参加しました。国連に乳児を連れるケースは初めてだったため話題となった人物です。ニュージーランドは女性が元気に活躍、男性も子育てに積極的に参加しています。**子どもを持つ女性が働きやすい環境が整っていると感じました。**

佐藤 子育てに参加する男性をニュージーランドでは、キーウイハズバンドの愛称で呼びます。キーウイはニュージーランドの国鳥です。メスが赤

ちゃんを産んで、オスが卵を温めて子育てをするんです。男性も積極的に子育てに参加する国民性になぞらえて、そう呼ばれています。キーウイの鳥のようにお母さんが働いて、お父さんが家事する「専業主夫」の家庭も珍しくありません。

ラーニング・ストーリーの役割

佐藤 研修では、保育園、幼稚園、マオリ文化の幼稚園（テ・コハンガレオ）、プレイセンター、小学校、中学校、大学（養成校）……高校以外の全ての教育施設を視察しました。

小西 プレイセンターは日本では聞きなれない教育施設ですね。

佐藤 プレイセンターは「家族と一緒に成長する」という理念を掲げており、80年近い歴史を持つニュージーランド独自の認可教育施設の一つです。「親教育講座」を受けた親たちが未就学児の子どもと一緒に参加し、活動しています。プレイセンターでも、教育する親が子どもの「観察記録」として「ラーニング・ストーリー」を書いています。保育はその日1日を楽しく遊んで終わりではありません。連続性の中で子どもを育てています。学

みんなが自然と
あつまるところです



1 遊具の下にはすべてウッドチップが敷いてありふかふか。2 園庭と室内をつなぐ、広々としたテラス。雨の日も外の空気を感ずることが出来ます。3 庭のオレンジは、みんなで育てて収穫。子どもの目の前で切って、食べます。4 保育者が使い方を教え、本格的な工具を使って製作します。一見危なそうにみえますが、将来大きなケガをしないために、小さなケガは気にしないという方針です。

びを次の日に生かしていくには、子どもたちが、今何に熱中していて、どのように遊んでいたか、その子の好きなものはどんなものかなど、しっかりと子どもの姿を「観察」することが必要です。「ラーニング・ストーリー」は国で認められた評価方法で、子どもを「できる」「できない」で判断せず、子どもたちのありのままを「観察」するツールとして開発されました。子どもが小学校に上がる時「ラーニング・ストーリー」を持って、「自分はこんな学びをしてきたよ」ということを小学校の先生に伝えています。日本でいう「指導要録」として使われているのです。

小西 「指導要録」は、年長になる子どもが小学校に上がる、つなぎの役目にあたるものですね。日本の場合、「指導要録」は先生から先生に渡るものなので一般的に文字で書かれていて、子どもが目にすることはほとんどありません。「ラーニング・ストーリー」はお友だちとの関係や、何に夢中になっているのかなど、先生に情報が伝わりやすいところが、すごくいいですね！

佐藤 文字だけですと子どもが説明するのは難しいですね。その点、「ラーニング・ストーリー」は写真を用いて可視化されています。子どもが「こ

んな学びをしてきたよ」と自分の言葉で自分の育ちを語ることができるのです。

小西 現地の「ラーニング・ストーリー」は決まったフォームがなく、記録する人によって写真を貼ったり、イラストを描いたり、印象が全く違う個性豊かなもので感心いたしました。みなさん作り慣れていましたね。

佐藤 フォームが決まっていないのが、「ラーニング・ストーリー」の素晴らしいところです。保育者の方でも、写真の撮り方が得意な人、絵が得意な人などと様々です。切り貼りでも大丈夫。自分が書きやすい方法で自由に記録して、楽しみながら書くことが大切です。ウェブのフォーマットを上手く利用している保育者もいましたね。

小西 私もウェブをみましたが、「ラーニング・ストーリー」のフォーマットが誰でもダウンロードできるようになっていました。見た目もかわいくて思わず書きたくなるデザインのものがたくさんありました。弊社では2019年4月より「ラーニング・ストーリー」を東上野園で始めたばかりです。フォームは佐藤先生、園長と話し合いながら作りしました。日本の保育指針である、「5領域、10の窓」のポイントを押さえながら、A4用紙1

Profile



淑徳大学短期大学部
こども学科教授

佐藤 純子

2004年ニュージーランドに渡り、約1年半現地の教員養成校で学び、保育園・プレイセンターの幼児教育を調査・研究。ニュージーランドの幼児教育の専門家として、帰国後、プレイセンターの普及活動、日本の幼児教育の改革に従事する。



プリメックスキッズ株式会社
代表取締役

小西 由美枝

長年関わった保育園の閉園を機に、事業部と社員を引き継いで独立。学童保育、子どもアート、英会話教室などを運営。現在は、都内に2カ所認定こども園、3カ所の認可保育園、4カ所の小規模保育事業、1カ所の学童保育所を運営する。



「ラーニング・ストーリー」は コミュニケーション能力を養う 第一歩として活かせると思うんです

枚に「自由に記入するスペース」「学びの芽生え」「次の学びにつなげるには」の3つの枠を設けています。日本は指導要領の基準がしっかりと決められた中で保育をしますので、「ラーニング・ストーリー」が「指導要録」の代わりになるわけではありません。保育者にとっては「ラーニング・ストーリー」はプラスアルファの作業です。なるべく保育者の負担にならず、楽しく記録できるように考えています。保育者たちも、刺激的で楽しく取り組んでいます。子どもの「学びの芽生え」を保育者の目線で見つける。それを、「ラーニング・ストーリー」を通して保護者の方にも伝えられれば嬉しいです。

佐藤 「ラーニング・ストーリー」は保育者同士のミーティングでも役立ちますね。担任ひとりの目線だけでなく、保育者同士が「ラーニング・ストーリー」を元に子どもの様子を話し合い、多角的な視点から子どもの発達や、その子の気質を捉えることができます。これが大切です。私も東上野園でのミーティングに何度か参加していますが、担任の先生以外も、「ラーニング・ストーリー」を通じて、子どもの情報共有ができていていると感じています。

小西 日本では保育の質の向上が課題となっています。私は、子どもを「観察」「記録」することが、保育の質を上げる一つの方法だと考え、「ラーニング・ストーリー」を導入しました。始めたことによって、良い変化が生まれています。それは、①保育者が目の前のことだけでなく、客観的な視点を持つことができる、②それを他の保育者と共有することができる、③すると保育の現場が楽しくなる、④楽しくなると保育の質は上がる、という変化です。保育者同士、違った視点で子どもを語ることで、保育の広がりも生まれています。そして、「ラーニング・ストーリー」は保護者も巻き込み保育に参加をすることを可能にしています。「ラーニング・ストーリー」には保護者の記入欄を設けています。保護者の方からは、「家では単

に遊んでいるだけと思っていたことが、学びの芽生えの延長線だったことが分かり、その芽生えを家庭でも引き出すチャンスだと気づくことができました」とお返事をいただきました。保育園だけでなく、家庭も巻き込みながら子どもを「観察」することで、保育の質はさらに向上しています。

佐藤 おっしゃる通りで、「ラーニング・ストーリー」は子ども、保育者、家庭が三位一体となり成長を共有できる記録ですね。

自分を尊ぶ気持ちの芽生え

佐藤 日本の教育は、協調・協力するということを大切にしていますが、ニュージーランドは自立を赤ちゃんのころから教えます。新生児からひとり部屋を与えられ、保護者は赤ちゃんが泣いても泣き止むまで待ちます。

小西 ニュージーランドの子どもたちは自分で考えて行動ができていましたね。子どもたちは園庭、室内を自由に移動して、やりたいことを自分で決めて時間を過ごしていました。日本の保育園ですと散歩に行くときや制作などは一緒に行くことが多いです。

佐藤 ニュージーランドは保育者の数が圧倒的に多いからできることですね。子どもたちが自由に過ごすからこそ「観察」が必要なんです。その子が何をやっているのかを、保育者がちゃんと見ていて「ラーニング・ストーリー」にまとめます。自由な中にも、この子がこの時間まで何をやってたのかを保育者がきちんと把握しているのです。

小西 東上野園では、保護者の方に許可をいただいて、園内でファイルにまとめた「ラーニング・ストーリー」を子どもも保護者も読むことができますようにしています。すると、子どもは文字が読めなくても、写真で自分が写っているのを見つけて、「あ！ぼくのことをせんせいがみてくれてる！」と気付くのです。そして、お友だちにも「ぼくがうつっているよ！これぼくだよ！」と教えた

りしています。「ラーニング・ストーリー」を通して、自分が先生に見てもらっている、大切にされているということが理解できているのです。先生が自分のことを見てくれて、保護者もコメント欄で自分のことを書いてくれている、客観的に自分自身を知ることができる、この一歩が、子どもたちのコミュニケーションの土台になると考えます。多様な人たちとコミュニケーションをとっていくのは本当に難しいことです。そんな中、コミュニケーションの上手な人は「客観的に自分を見られる人」だと気付きました。

佐藤 自分が他人から見るとどんな人間なのかを知っている。「自分を知っている人」ということです。

小西 コミュニケーション能力は、人間の大切な特質だと考えます。客観的に自分を見られるものが「ラーニング・ストーリー」です。子ども、保護者、保育者と一緒に、コミュニケーション能力を養う第一歩として活かせればと考えています。

佐藤 子育てはどうしても、「主観」に走ってしまいがちです。保育者の書く「ラーニング・ストーリー」を保護者が読むことで、子どもを「客観的な視点」から見るができます。東上野園の保護者の方たちからも、「うちの子にもはこんないいところがあるんだ」「こんなことに興味があったのか、それならうちでもやってみよう！」など「ラーニング・ストーリー」を通して、園と家庭がつながっていくのが素敵だと感じました。

小西 保護者の方に、子どもの写真を持参して「ラーニング・ストーリー」を作ってもらう機会を作るのもいいですね。育児日誌と同じように、子どもが大きくなって見返したり、子育てに行き詰まったときに見返すと「こんな日もあったんだな」と思い出せるような。

佐藤 ニュージーランドでもそういう風に、「ラーニング・ストーリー」が使われていると聞いています。ニュージーランドの子どもたちは自身の

「ラーニング・ストーリー」を持っています。高校生の男女が、デートの時に「ラーニング・ストーリー」を見せ合って、こんな時があったんだねって話しあったという、ほのぼのとしたエピソードがあるほどです。自分のことを大切にしている気持ちがだれかとシェアしたい。これこそ「自尊感情」ですね。

小西 日本の保育園は新保育所保育方針が変わり、子どもの主体性を大切にするという流れになっています。遊びの中から主体的で対話的で深い学びにつなげる保育・教育を子どもに提供するという事です。ただ、日本の保育・教育環境は子どもの人数に対して、保育士の配置がまだ十分ではないというところがあります。弊社では、子どもや保育士の状況を考えながら、主体的な学びの時間を取り入れています。一人ひとりのやりたいことや遊びが選択できることで、自習、自立が生まれていくのではないかと考えます。

佐藤 日本の幼児教育も過渡期で、「認知能力」の「できる」「できない」ではなく、「相手を思いやる心」や「我慢する気持ち」など「非認知能力」を大切にしています。子どもの「非認知能力」は「一人ひとりの学びの物語を綴ってあげる」ことで養われていきます。

小西 まさしく、「ラーニング・ストーリー」を通した保育士と子どもの関わりから育まれていくんですね。

佐藤 そういった意味では、「ラーニング・ストーリー」は今の幼児教育にもマッチしていると感じています。

小西 私は研修の時に保育士さんたちにかかる言葉があります。それは、「あなたたちは日本の未来をつくる子どもたちを育てている」ということです。子ども一人ひとりの能力を伸ばしていくと、私たちが育てた子どもの中に、もしかしたら世界を変える発明・発見をする人がいるかもしれない……そんな世界、未来をつくっていく子どもたちを育てる仕事なんだと伝えています。

取 材 場 所 はぐはぐキッズ こども園東上野

東京都台東区東上野 2 丁目
13-12 M&M 3 F

※都心のビルの3階にあり、
子どもたちは歩いて散歩に
でかける。自然は少ない

クラス名	人数
Flower(0歳児)	6名
Moon(1歳児)	9名
Snow(2歳児)	11名
Star(3歳児)	14名(3)
Cosmos(4歳児)	14名(3)
Rainbow(5歳児)	14名(3)

※() 内人数=幼稚園
※ Rainbow クラスの2019年度
の児童数は13名(2)



東上野では2019年4月から、「ラーニング・ストーリー」をRainbowクラスで始めました。ファイルにまとめた記録は、玄関すぐの掲示スペースに置いていますので、他の保護者や子どもたちがいつでも読むことができます。



はぐはぐキッズこども園東上野
施設長 富田 ちひろ 先生



「ラーニング・ストーリー」は 目の前の子どもの学びを 可視化するツールです

か た づ け な い



出しっぱなしのおもちゃたち。子どもたちの遊びのものがたりの世界観を大切にしています。

さ わ ら な い



どの園にもあるのが、制作途中なので、「さわらないでね」「かたづけしないでね」の意思を示す「Work in progress (制作中)」のカード。自分の顔写真をカードにつけて、グループで長期的な制作に挑戦します。